

令和4年度社会教育施設評価書（目標設定・実施結果）

施設名 近代美術館

評価基準 (達成度)	達成 (目標値 \geq 100%)	○
	ほぼ達成 (目標値 \geq 80%)	△
	未達 (目標値 $<$ 80%)	×

○全館共通項目

		取組の内容		自己点検		
		1年間の目標値	実現方策	達成値	達成度	課題・対応の方向
利用状況	利用者満足度	94%	アンケートに示された意見を活用して改善を行う	95.2%	○	全体的に評価は高かった。引き続き満足度向上に努める。
	入館者	50,000人	広報に努め一層の集客を図る	101,144人	○	引き続き魅力的な展示・講座を実施し、入館者数の増加に努める。
	の教育・普及事業への参加者	増加させる (前年度) 207人	ニーズを汲み充実を図る	1,169人	○	新型コロナウイルスの感染状況を伺いながら、講座・イベントに加え普及教育教材の配布等に努める。
	トインタクセスマネツ	増加させる (前年度) 美術館ウェブサイトアクセス数 541,626件	改修したホームページを活用して訪問者のニーズに応える	745,194件	○	引き続き情報の即時反映に努め、アクセスの増加につなげていく。
資料・収蔵品	活用	増加させる (前年度) 314点	県民共有の財産との観点から有効活用を努める 館内展示利用数	280点 (資料・寄託作品を含む)	△	館内展示利用数については微減しており、今後も感染状況を見定めながら、財産の有効活用を努めていく。
		16件	特別利用許可申請数	18件		
		15件	館外貸出件	17件		
		44件	画像貸出件数	35件		
		389件	計	350件		

	維持管理	美術作品の保存に適正な環境を維持	P F I 事業者 に保存環境の維持履行を求め、職員として適正な取扱いを実施	概ね達成	△	葉山館においては、安定した温湿度を保ちながらの運用ができています。引き続き、要求水準を満たしつつ、省エネ運転を実施していきように努めていく。 鎌倉別館においては、再開館後の空気環境はおおむね安定しており、今後も P F I 事業者の協力のもと、よりよい環境での運営に努める。 展示ケース内の環境改善が課題となっているため、PFI 事業者と調整しながら状況改善に努める。
調査研究	研究成果の公開 (発表・印刷物等)	増加させる (前年度) 4 件 0 件 1 件 7 件 12 件を倍増させる。	研究成果を積極的に公開し美術館員の学術成果を発信する 文献等の執筆数 研修会の講師派遣数 研究集会での発表件数 競争的外部資金の獲得件数	4 件 0 件 0 件 6 件 10 件	△	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、講師及び研究の機会はなかった。引き続き研修・講座講師等、研究成果の公開に努める。競争的外部資金についても引き続き獲得に努める。
情報発信	事業情報の発信	増加させる (前年度) 4,096 件 8 件 228 件 4,332 件	ツイッターフォロワー数 プレスリリース数 記事等掲載数 計	6,763 件 8 件 323 件 (SNS 投稿数) 7,094 件	○	新型コロナウイルス感染症拡大の影響からの外出の自粛による県民の美術作品鑑賞機会の減少を補うため、展覧会や作品を紹介する取組みを積極的に行った。 引き続き、今後も魅力的なコンテンツを作成し、着実な情報発信に努める。
施設運営等	観覧料及び事業等収入	49,712 千円 (前年度) 16,614 千円	展覧会の鑑賞を通じて県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図る	57,632 千円	○	鎌倉別館の再開館や葉山館の展覧会が好調であったこともあり、入館者数は増加した。引き続き幅広い年代層を引き込めるような展覧会を企画するとともに、日頃の調査研究成果を反映した親しみやすい図録を作成することにより、引き続き観覧者及び事業等収入の増加に努めていく。

	施設点検	(記述式) 一層魅力あ る施設を作 る	職員自ら他 者目線で点 検する	職員自らPFI 事業者と もに修繕箇 所や不具合 がないか確 認を行って おり、発見 した修繕箇 所は修繕計 画に反映さ せている。	○	安全な施設運営を実現できている。引き続き、安全で快適な施設の維持とともに、誰にも開かれたインクルーシブな施設環境を目指し、点検結果を修繕計画や事業計画に反映させ、適切な施設点検を行っていく
	自己研鑽及び他館の研究	(記述式) 積極的に研 修に参加さ せるととも に他館との 情報交換・ 共有に有益 な会議等へ の参加を増 やす。	研修に参加 しやすい環 境を整える。 オンライン 方式により 会議・研修 を行う。	社会包摂な などに関する 研修を行う。	△	自己研鑽として学芸員等がそれぞれの専門分野を深め、学会や研究会、刊行物での発表をできる環境を整える。また、他館の職員と意見交換の場を持ち、他館の運営についての知識を得るように努める。

注) 各論は各館独自の取組みを中心に評価項目や指標を設定する。